

志木市議会議員 無所属

天田いづみの議会だより

市議会・まちづくり情報



〒353-0006 志木市館1-1-2-108

Tel/Fax: 048-471-1338

E-mail: amada@ff.e-mansion.com

天田いづみのホームページ <http://www.ff.e-mansion.com/~amada/>

第40号 2010年2月

柳瀬川駅ホームの安全対策を求める

柳瀬川駅エレベーターについては、新交通バリアフリー法に基づき2010年度の設置に向け、志木市も東武鉄道への補助金交付を計画しています。

昨年9月に東急東横線多摩川駅で、車いすに乗った高齢者がホームから車いすごと転落し、翌月亡くなった事故は、ホームの傾斜が通常より急な2.5%なのに、利用者への注意喚起が不充分だった。電車の到着に合わせて開くホームドアの設置が望ましいが、ドアの位置が違う電車の相互乗り入れなどが障害となり、各鉄道会社とも対策は思うように進んでいないということから、志木駅・柳瀬川駅についても調べてみました。

志木駅については、エレベーター設置の際計測したところ2%以下であった。柳瀬川駅については計測していない。東武鉄道ではエレベーター設置の際、計測を行っているということです。

そもそも、柳瀬川駅はホームの幅が非常に狭く、車いすで利用している方は、怖いのでホームの端には行かずに真ん中で待機しているとのこと。エレベーターが設置されれば、ベビーカーやカート等、多くの方々が利用できるようになります。

12月議会では、ホームの安全対策を含め、計画段階での高齢者や障がい者等の意見の反映を現地で行うことを東武鉄道に要請することを求め、小山市民生活部長からは「志木市だけでなく、柳瀬川駅を利用される富士見市や新座市の高齢者

や障がい者の皆さんの意見や要望等が反映されるよう、調整を図っていきたい。柳瀬川駅は他の駅と比べホームが狭くなっているのも、その対策についても高齢者や障がい者等が安全に利用できるよう、あわせて東武鉄道に要望していきたい。」との答弁がありました。



上福岡駅ホームで現地調査 (10.01.20)

子育て支援について

(1) 市立保育園の整備及び 民営化計画について

市民福祉常任委員会で11月に視察した千歳市では、既にある民間保育園とともに、公立保育園のうち民営化し移転建て替えるもの、公立の機能を生かし建て替え整備するもの等を計画に位置付け、子育て支援を推進していました。

運営費は直営の場合、民営化に比較し1.5倍の

経費がかかることも積算し、2009～10年度については国の待機児童解消対策「安心子ども基金」を施設整備の補助として活用できるので、これにより自治体負担を多く事業者負担を少なくし、民設民営保育園を誘導していました。

待機児童解消、多様な保育サービスの充実のためには、近隣市でも社会福祉法人が経営する保育園に地域子育て支援センター、老人デイサービスセンター・指定居宅介護支援(ケアマネジメント)事業所を併設、市の委託事業として配食サービスも行うなど、民間の自由な発想や、地域のニーズを汲み取った多様な事業展開で、行政との連携により市民の期待に答えています。(天田いづみの議会だより 第39号 福祉政策について～子どもと高齢者の共生～)

志木市の6保育園(定員490人)は全て公立でしたが、昨年4月より志木駅前通りに民設民営の認可保育園(定員30人)が運営されており、2010年4月には上宗岡に30人(11月にオープンした老人デイサービスセンターに隣接)、館(ぺあもーる内)に60人定員の民設民営保育園が開所予定です。

さらに、12月議会では長沼市長から、宗岡第二小学校敷地の一部市有地を有効に活用し、民設民営による新たな保育園の建設に向け取り組んでいくことが明らかにされました。

1500㎡の市有地を社会福祉法人に無償貸与し、100人程度が入園できる規模の保育園を建設し、運営する。事業者については公募し、児童福祉審議会などの有識者による選定委員会を組織し、2月下旬までに事業者を決定したいということです。

公募内容については、保育サービスの拡充に向けて、0歳児保育(生後57日以降)、延長保育、ひまわり(障がい児)保育、一時保育、特定保育事業、病後児保育、休日保育等、従来の公立にはないサービスを国・県・市の補助金を活用し実現するものです。

例えば、特定保育事業では、保育園に従来通園している児童福祉法上の保育に欠ける児童だけではなく、週2～3日の就労や求職活動、通学、定期的な看護や介護等を対象としており、社会のニーズ

に応える幅広いサービスとして、市民の理解も得られるものと考えます。

そもそも、民設民営であっても児童福祉法にもとづく保育の実施主体は市であり、保護者は市に保育料を納め、市は運営費(国1/2、県・市1/4)を負担するもので、県の指導監査はもとより、市が運営状況を把握していくことは当然です。

保育園では保護者や地域住民等で組織する運営委員会を設け、第三者評価も視野に入れながら、意見を反映していくことになります。

これらにより、市内保育園の定員は、公立490人に加え、民設民営で220人が整備されることになります。

一方で、老朽化している北美・ばんば・三ツ木保育園は敷地も狭く、現地での建て替えは困難です。民設民営保育園により定員が増になったところで、公立の3園についても保育ニーズや建物等の状況を総合的に踏まえ、計画を立案し、整備していくことを提言しました。

長沼市長からは「千歳市の事例について詳細に紹介いただき、今後の本市の保育運営の参考にさせていただきたい。次世代育成支援推進行動計画の後期計画(2010～14年度)を策定する中で、的確に保育ニーズを把握し子育て支援策を充実していきたい。」との答弁がありました。



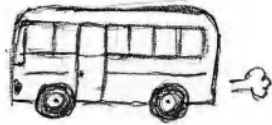
(2) 学童保育の今後のあり方について

2008年12月議会では、学童保育の保育時間延長等、現状の市直営では長年保護者からの要望に応じてこられなかった課題に対し、多様な運営形態により実現していくべきと提言しました。

一年経過し、12月議会で質したところ、尾崎健康福祉部長からは「保護者からの安心感を確保し、安定した生活の場を提供する役割をさらに進めるため、運営主体を社会福祉法人及びNPO法人等への業務委託などを選択肢として、保護者の多様なニーズに対応するための運営体制を確立していきたい。現在策定中の志木市子育ていろはプラン、次世代育成支援推進行動計画の後期計画(2010

年度～14年度)に位置づけしていきたい。」との答弁がありました。

私からは、2010年度中に一部でも実現できるように要請しました。



2009年9月議会 一般質問より

■ 持続可能な交通システムについて

高齢者、障がい者等が利用しやすい交通システムについては再三取り上げてきましたが、引き続き高齢者の方からは切実なご意見、ご要望が多く寄せられています。

2012年には5人に1人が高齢者になる見込みです。閉じこもりにならずに外に出て活発に活動していただくためには移動支援が大変重要であり、高齢者福祉に関わる方々からもそうしたご意見が寄せられています。

一方で、現状のふれあい号には約1,400万円、市民病院総合健診センターへのシャトルバスには約580万円(2009年度は国の交付金)、計2,000万円程度の経費がかかっており、それに加えて新たなバスを走らせるのは無理があると考えます。また、高齢者の方々は、適正な自己負担はしてもよいということです。

一定の自己負担で予約制で走らせるデマンド方式や、市民がボランティアで走らせている交通システム等も紹介してきましたが、ふれあい号の契約期間が切れる2011年9月までに、ふれあい号等のあり方も含めた、誰もが利用しやすい持続可能な交通システムを提言しました。

長沼市長からは「高齢社会を迎え、増加する高齢者の生活移動手段の確保と、地域の誰もが利用しやすい公共交通環境の整備は、大変重要であると認識している。ご提言の持続可能な交通システムのあり方については、慎重に研究していきたいと考えている。」との答弁がありました。

■ 予防に重点をおいた市民の心身の健康づくり 自殺予防・精神保健

自殺予防のために始めた多重債務の救済策が効果を上げている事例、相談者をたらい回しにせずワンストップで解決までフォローしていく仕組みの重要性が指摘されています。育児に疲れている親の支援も、経済的に困窮した家庭への福祉支援も自殺予防につながっており、生きる上で困難を抱えた人に丁寧に相談にのっていくことが大切だといわれています。

中高年男性の自殺に飲酒が関係しているのではないかとの調査結果も明らかになっています。

アルコール依存症にうつ病を併発し、アルコールが衝動性を高め行動に移す危険を高めている。職場での健康対策でも、うつ病だけではなくアルコール問題も含めたメンタルヘルス対策が必要との指摘もあります。

自殺予防の実態把握と対策、また、引きこもり等も含めた精神の病気や障がいへの予防と対策、さらに、高齢者や障がい者等を介護している介護者へのサポートは、大変重要な課題です。

ライフステージに応じた予防

介護保険に介護予防が位置付けられていますが、保健センターも各年代に応じた保健指導の立場で、認知症予防に有効なDHA、EPAを含む青魚等の食品や運動の必要性等、介護予防の観点からも積極的に現場に出ていってPRしていく。食生活改善推進員等とも連携して予防にいい食べ物を紹介していくなど、すべきことは沢山あると思います。

健診受診率向上への取り組み

志木地区については受診率が高い傾向、宗岡地区は低い傾向ということですが、高いといっても40%には届きません。特定健診・特定保健指導の受診率向上に向け宗岡5区の町内会に対し現在働きかけを行っている健康1番地事業を、市内全域に広げ、推進していくことが大変重要と考えます。

尾崎健康福祉部長からは「ご指摘の市全体としての機能が発揮できる体制づくりや地域との連携の

必要性については十分認識しており、健康づくり支援課の創設や食生活改善推進員をはじめ母子保健推進員とも協働して地域の健康づくりを進めている。

今後、(仮称)健康増進センターのオープンにあわせて、さらに、地域と一体となり積極的な予防に重点を置いた事業展開ができるよう、市全体として健康づくりに取り組める体制整備の強化を図ってきたい。」との答弁がありました。



■ 高齢者福祉について

(1) 福祉事務所、介護保険の保険者としての機能

介護保険制度が導入されて以後、ややもすると民間に丸投げで、福祉事務所としてのケースワークの機能、介護保険の保険者として総体を把握してマネジメントしていく機能が志木市に弱いのではないかと申し上げてきました。和光市の事例も紹介してきましたが、ケース会議を丁寧に積み重ねることで、各機関の共有・連携が図られて、徐々に医療機関等にもご協力いただけるのではないかと。

地域包括支援センターに求める機能も、連携の中から市独自の視点で、取り組むべき課題を反映させていくことが重要です。

尾崎部長からは、「月1回の連絡会議やケアプランチェックにより困難事例の検討をともに考える中で、総合マネジメント機能も発揮し支援している。」との答弁がありました。個々のケースから見えてくる課題、地域の課題についても、チームアプローチをしっかりとっていられるように提言しました。

(2) 虐待への対応

志木市では、子どもの虐待防止については市独自でパンフレットを作成し、学校教職員研修会でも積極的に研修を行うなど取り組みを進めています。

高齢者については「高齢者虐待防止法や県の虐待対応マニュアルに沿って対応している。」との答弁でしたが、県のマニュアルにもある、市独自の現場に即した詳細が整っていないのではないかと。

例えば他市では、専門家チームの中に、医師会をお願いして医師にも関わっていただく体制ができ

ています。命にかかわる問題なので、スピーディーに対応できる体制づくりを求めました。



(3) 医療との連携

認知症や、若年で介護保険が非該当のアルコール依存症による身体機能低下等に対し、往診できる医師がない等で現場は大変苦勞しています。

自ら通院できずに衰弱していく方に対し、往診あるいは訪問診療を、市も一緒になって医療機関にお願いしていくことが必要です。

一方、介護保険の居宅療養管理指導は、医療行為ではないものの、医師・歯科医師・薬剤師・管理栄養士等が訪問し指導するもので、有効に使うことで在宅での安心につなげることができると思います。残念ながら志木市では、グループホーム等以外の在宅では殆んど活用されていないことがわかりました。

医師会等に協力を求めつつ、ケアマネジメントに位置づけていくように、地域包括支援センターと連携し、研修等による啓発が必要と考えます。

尾崎部長からは「介護保険制度において医療との連携は重要であると認識している。今年度から介護報酬において医療連携加算がとれるようになったので、各医療機関やケアマネジャーと協力して連携を深めていきたい。」との答弁がありました。

市民病院では、小児科の市民病院での夜間診療を通じて、朝霞地区医師会の各医療機関から市民病院に対する理解も深まり、協力体制もできるようになったということです。

縦割りではなく、そうした信頼関係を膨らませていく形で、大切に育てていただきたいと思えます。

所沢市のように、医療関係者で認知症に対応していくネットワークをつくっていく機運にまでつながるように、粘り強い取り組みを求めました。



(4) 介護予防の検証と推進

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画審議会でも「要支援や特定高齢者・一般高齢者が要介護にならないような施策を、各自治体では大変力を入れて取り組んでいる。志木市も何かやっ

ないと」というお話しが各委員から出されてきました。

2008年度の配食サービスは目標値90に対し実績14と非常に低く、自己負担額を問題にされている方もいらっしゃいますが、私は、行政が行う配食サービスの意味、どういう機能を持たせていくのかが最も重要ではないかと考えます。現在、安価なお弁当も出てきているし、宅配業者も増えていることですが、低栄養の方がカップラーメンばかり食べていいのか。あるいは、糖尿病でカロリー制限しなければならない方が安いからといって高カロリーのお弁当を食べていいのか、という点にこそ、市がしっかりと力を入れて取り組んでいくべきではないかと考えます。

和光市では栄養改善・食の自立の観点から、管理栄養士を地域包括支援センターに配置し、コミュニティケア会議で評価・見直し改善をしながら、一人ひとりの実態に即した配食サービス等、総合的な施策を展開しています。

また、ホームヘルパーの方々に研修して、自宅でできるセラバンドを使った簡単な運動を指導しています。

ホームヘルパーは訪問の際、一緒に身体を動かし、出来るところは一緒に料理も行う等して、自立につなげています。

介護保険制度では、要支援・特定高齢者には、目標を立てて身体機能を向上させる3か月毎のプログラムを行っていますが、自立となれば効果を検証する仕組みから外れてしまいます。現在行っている介護予防事業を検証し、カッピー体操等運動面だけではなく、食生活の見直し等、志木市に足りない点を行っていく必要もあると思います。

尾崎部長からは「シニア体操、いろはカッピー体操の参加者が増加し、介護予防に取り組もうとする市民の意識が高くなってきていると感じている。介護予防事業の効果等を地域包括支援センターと連携しながら検証していくことにより、特定高齢者施策と一般高齢者施策が一体的継続的に展開されるよう、介護予防をさらに推進していきたい。」との答弁がありました。

要支援については、予防プランの質を高め、配食サービス等についても再検証していくことで、現状の中からでも改善につなげることを提言しました。



(5) 見守りネットワークの構築

志木市でも認知症高齢者にかかわるネットワークを組織していることは承知していますが、社会福祉協議会で地域福祉コーディネーターと町内会が一緒に行っている地域福祉活動や、防災の観点から要支援者のマップづくりをやりたいといった情報を、市の高齢者や防災の担当課が把握していないと感じてきました。

高齢者に関わる一つひとつのケースへの対応も、和光市では社会福祉協議会も一緒になって取り組んでいます。介護保険等で行うフォーマル(公的な)サービス、地域の福祉力というインフォーマル(公的でない)サービスを、一人ひとりの高齢者に対しても、地域としてもしっかり組み合わせ、連携して切れ目のないサービスを提供し、出来る限り地域の中で生活できるようにしていく。そのために、市が総合的に把握して機能させていく、マネジメントしていくことが、行政の責任であると考えます。

また、地域包括支援センターがまだまだ市民や民間事業者には知られていないために、協力をお願いしても難しいケースもあるということです。市が協定を結んで、ケアマネジャーや地域包括支援センター等が動きやすいようにしている自治体もあるとのこと、そうした取り組みも必要と考えます。

尾崎部長からは「志木市要介護高齢者支援ネットワークに町内会連合会・民間団体等40団体の協力をいただいております。毎年研修会や事例検討会を実施し、地域での見守りの一助を担っていただいている。」とのことですが、大手スーパーや商店会、また、団地の管理会社等にも呼びかけ入ってもらう。認知症サポーター養成講座にも参加していただくことで、事業者側も認知症高齢者等への理解が進み、対応がし易くなると思います。

また、認知症サポーターのフォローアップセミナー等で、地域住民が継続的に活動していける取り組みも提言しました。

■ 教育相談における現状と課題

特別支援教育について

教育サポートセンターの教育相談件数は、2006年度 1,500 件に比べて 2007 年度 2,782 件、2008 年度 6,473 件と大幅に伸びており、2009 年度は 1 学期で 2,306 件となっています。

これは必ずしも問題が増えてきたということではなく、安心して相談できる体制が整ってきた。問題が潜伏するのではなく顕在化してきたということで、関係者の努力の成果と考えます。

私は幼保・小・中・高の接続を重視した教育のあり方について長年提言してきました。特にこれらの観点に立ち、教育相談における現状と課題は何か。また、必要とされる学校への特別支援学級の設置、さらに、志木市には1か所もない発達障がいの子どものための通級指導教室の設置について質しました。

特別支援教育については、各学校に専門性のあるスタッフを有し、発達障がい等に対応できる体制を学校内につくることが重要です。

白砂教育長からは「本市の教育相談は、各学校で担任等が行うとともに、教育サポートセンターを中心に市内小・中学校相談室で行っている。

特に2008年度から、従来の中学校に加え、小

学校にもサポートセンター相談員を派遣していることから、相談件数が非常に多くなっている。相談内容において多くを占めるのは、不登校や特別支援教育の就学、発達などに関することとなっている。

特別支援教育については、サポートセンターと各学校との連携のもと、年々校内支援体制が整備されてきているが、中学校での不登校が増える傾向は続いていることから、中学校での不応を減らすための対策がより重要であると考えている。

このようなことから、各中学校・関係機関・サポートセンターが連携のもと不登校対策に当たっているが、不登校の原因の一つとして発達障がいによる不応もあり、小学校入学前からの就学相談の一層の充実とともに、幼稚園・保育園・小学校・中学校や中学卒業後の進路も含めた、長期にわたる一人ひとりのニーズに応じた支援体制の推進が重要であると考えている。」

また、「特別支援学級の設置については様々な課題があるので校長会等とよく連絡をはかりながら検討していきたい。

通級指導教室については、本市にまだ未設置なので、今後県に要望していきたい。」との答弁がありました。

● 天田いづみの活動日誌(主なもの)



- 2009年8月2日 志木二小及び志木四小通学区域説明会(志木四小体育館にて)
- 4日 空き店舗を活用した高齢者ふれあいサロン整備構想について説明会(高齢者ふれあい課)
- 7日 埼玉県市議会第5区議長会議員研修会「どうなる日本の政治」政治評論家 岩見隆夫さん
- 10日 ふれあいサロン整備構想等について市民と懇談
- 11日 地域包括支援センターせせらぎ 飯田所長より現状と課題について伺う
- 17日 本町5丁目火災現場視察
- 19日 地域包括支援センター柏の杜 石幡所長より現状と課題について伺う
ダイエー志木店 玉木店長と駐輪システムと放置自転車について懇談
- 27日 高齢者保健福祉計画審議会・介護保険事業計画策定委員会傍聴
- 29日 法に退けられる子どもたち 坂本洋子さん(子どもの人権埼玉ネット、NPO法人子ども劇場おやこ劇場埼玉センター)
- 9月1日~28日 議会定例会
- 6日 西原特定土地地区画整理事業 第9回総会
- 7日 空き店舗を活用した高齢者ふれあいサロン整備構想について説明会(高齢者ふれあい課)

- 15日 志木三小3年生 柳瀬川での環境学習（エコシティ志木）
- 21日 敬老会
- 25日 朝霞地区防犯協会定期総会
- 26日 IT ボランティアによる初心者のパソコン質問視察（宗岡公民館）
「地域コミュニティ」についての学習会 風見正三さん（生活クラブ志木支部・地域協議会）
- 30日 朝霞地区一部事務組合議会
市営墓地自然再生現地調査
- 10月2日 市営墓地自然再生現地調査（環境推進課、建築課）
- 4日 上宗岡4丁目火災現場視察
「ようこそエスペラントの世界へ」石川智恵子さん（ Rond・アミーカ志木）
埼玉県のがんを考える会第2回勉強会 正しいがん治療情報を広めるために～がん患者さんへの支援～ 古賀真美さん
- 7日 大野進さん展示会 絵で見る50～60年前（クラブ中野にて）
- 8日 「市民病院の再生改革について」経営改革課長 尾崎誠一さん（老後を快適にくらす会）
志木子育てサロン(マルイ6階)視察
- 9日 議会運営委員会・・・議会改革の協議について
保健センターによる健康相談 保健師 清水裕子さん（ぺあもーる）
- 11日 市民体育祭
- 15日 宗岡三小5年生柳瀬川での環境学習準備と片付け
- 16日 第10回屋内消火栓操法技術大会（埼玉県南西部消防本部）
- 17日 天田いづみのティータイム 地域包括支援センターせせらぎ所長 飯田敦さん
- 18日 健康まつり、第1回志木市8020よい歯のコンクール表彰式
- 19日 市民病院総合健診センターにて人間ドック、がん検診
- 20日 幸町2丁目道路の安全について実地調査
- 21日 朝霞地区一部事務組合決算調査、し尿処理場視察
- 22日 朝霞地区議長会議員研修会「新たな地方議会の役割」中央大学教授 佐々木信夫さん
- 23日 道路公園課と館・幸町道路、西原ふれあい第三公園実地調査
- 24日 市政功労者表彰式典
異世代協働プログラム室内楽コンサート（はらっぱの会）
- 25日 環境デー クリーン作戦 柳瀬川でごみ拾い
コスモスまつり
- 26日 朝霞地区一部事務組合議会決算特別委員会
- 27日 朝霞消防署 庄子政志消防士「忘れない、あの日、あの時、あの一瞬を」全国消防職員意見発表会に向け最後のリハーサル（埼玉県南西部消防本部）
- 28日 大小合併樋管周辺剪定
- 29日 消費生活セミナー「心の健康」ビヨンド ザ ボーダー(株)代表 安藤亘さん
- 30日 市民病院総合健診センターにて乳がん健診
家族介護教室「介護者の負担を減らせる安心空間」認知症サポーター養成講座「認知症の方の心を感じてみませんか」（地域包括支援センター せせらぎ）
アフターファイブ定例会（21しき市民会議5期）
- 31日 柳瀬川図書館まつり 大人のためのお話会



■ ふれあい号の利用施設が増えます！！

ふれあい号で利用することが出来る施設に4月より総合福祉センター、(仮称)健康増進センター(保健センター)、志木二小教育福祉ふれあい館、宗岡小三世代交流館が加わる予定です。

かねてから志木二小いきいきサロン、宗岡小ふれあいサロンの皆様からは、市内どこからでも高齢者が利用できるよにとのご意見をいただいていた。引き続き、誰もが利用しやすい交通システムを提言していきます。

■ 志木陸橋下に新座市が駐輪場 4月オープン

市営駐輪場が閉鎖された志木陸橋下(東口側)は新座市域のため、新座市が2009年度予算で駐輪場を整備しています。

土地を所有する県から占有許可を受け、フェンスで囲い、機械ゲート式、平置きの無人有料駐車場(自転車403台、バイク36台、定期利用のみ)として4月1日オープン予定です。

また、新座市の無料駐輪場だった志木陸橋下南口側も同様の無人有料駐輪場(自転車380台、バイク51台、定期利用のみ)として同日オープンとのこと。

志木市民も利用できるの、大変有難いことです。

■ 柳瀬川の浚渫工事について

2~3月にかけて、県により志木大橋から東武東上線鉄橋までの間で浚渫工事が行われます。川底の土砂をさらうことで河川の水深を確保する目的です。下流についても2010年度以降に順次行う予定とのこと。

以前より、志木ニュータウンや柳瀬川町内会、中野下住宅等の方々からは、上流からの土砂が堆積していることによる大雨や台風の際の水害を心配するご意見をいただいていた。

2010年度以降についても、またお知らせをしていきます。

■ 安全になりました

一昨年からご要望をいただいていた志木四小南側歩道は12月18日に補修されました。雨の日は歩道が水溜りになり、幸町方面から通勤通学等で利用される方々は車道を通らなければならず危険とのご意見を、館地区の方々からいただきました。

ご意見をお寄せくださいました皆様に心より感謝申し上げます。

■ 明るくなりました

東武東上線ガード脇交差点は、幸町、東の森壱番街から柳瀬川駅を利用する方々だけでなく、柏町と館地区を結ぶ重要な通路です。近隣住民の方から、ご意見をいただき、早速、高いところから交差点全体を明るくする道路照明灯が設置されました。



市民まつりで64mのかっぱ巻きづくり (09.11.15)



ティータイム

3月27日(土)

午後 2:00~4:00

柳瀬川図書館2階視聴覚室

志木の中で身近に感じていることなどを

気軽にお話しませんか?

** これまでの活動とその成果は!! **
天田いづみのホームページでご覧下さい